

院内感染を避け！ ～院内感染菌をゲノム研究からみる～

展示責任者 菅井基行(広島大学大学院医歯薬学総合研究科細菌学)

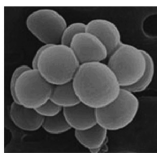
後藤直正(京都薬科大学薬学部微生物・感染制御学)



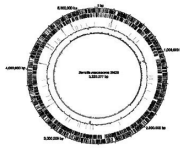
院内感染という言葉をご存知ですか？最近、新聞やテレビの報道でしばしば取り上げられているので聞かれたことがあると思います。私達は普段元気なときは、私たちの身体に住み着いている細菌の危険性について考えることなどありません。ところが病院に入院している患者さんは、病気のために抵抗力や体力が落ちています。そうすると、自分の身体に住んでいる細菌が暴れ出して感染症を起こすことがあります。また病院は感染症という病気を持った人が集まってくる場所、感染症のデパートなのです。そこでは隣のベッドに寝ている患者さんから、細菌をもらったり、手術に使う道具が汚染していると、それが原因で感染症になったりすることが数多く報告されています。これが院内感染です。



緑膿菌



黄色ブドウ球菌



セラチア菌のゲノム構造



DNAマイクロアレイ解析

では、どうやったら院内感染を防ぐことができるのでしょうか？私達の周りにはいる細菌全てが病原菌というわけではありません。私達は院内感染を起こす細菌のゲノムを調べて、病院に入院している患者さんにとって本当に怖い細菌を調べることができないかと考えています。もしその情報が明らかになれば、それを利用して院内感染の発生を低下させることができるかもしれないと考えています。

